

多治見市モザイクタイルミュージアム 年報 第1号

MOSAIC TILE
MUSEUM
Tajimi



モザイクタイルミュージアム
MOSAIC TILE MUSEUM Tajimi

多治見市モザイクタイルミュージアム
年報 第1号

MOSAIC TILE
MUSEUM
Tajimi



多治見市内の採土場（2016年8月撮影）
モザイクタイルミュージアムの外観のモデルと言われる粘土の鉱山



モザイクタイルミュージアム外観（2018年10月撮影）



モザイクタイルミュージアム俯瞰（2016年5月撮影）



伊藤慶二〈そく〉2016年
この作品のために用意された天窗のあるスペースと宙に浮いたように見える展示台。
伊藤氏の作品はミュージアムの建築デザインの発想に影響を与えた。



2016年6月3日
内覧会に向かう人々

あいさつ

藤森 照信

岐阜県笠原町（現多治見市笠原町）の各務寛治さんが私の研究室を訪れたのは、1997年3月のことだった。用件は、「古いタイルを使った建物の所在を教えてください」。

笠原町は戦後、モザイクタイル生産で大いに栄え、その歴史を後世に伝えるため、古いタイルを収集し、場所を借りて“タイル浪漫館”を開いているが、将来はちゃんとした博物館を設立したいので、タイル収集に協力してほしい、というのである。

タイルの博物館はすでに常滑にあるから、日本に二館はいらないと思ったが、あまりの熱意に協力を約し、その年の6月11日には笠原町を訪れ、「近代建築史におけるタイルの実例と未来」と題して講演会もしている。以来、10年以上にわたり何かにつけ各務さんから連絡があり、しだいに関心も湧いてくる。そんなおり、「目途が立ってきたので」と言われ、2011年3月、設立予定地の笠原町役場の建っている敷地を初めてその気で見えた。なんでも、笠原町が多治見市に合併されるにあたり、その合併特例債を使って設立するのだという。

設計に着手し、一番の困難は“どうタイルを見せるか”だった。それまでタイルを積極的に使ったことはなかったし、敷地の一面には巨大な町立のホールがあり、当然のように建物も広場の床もタイル張り。車にモザイクタイルを全面的に貼り付けた“タイルカー”まで見た。

タイルが、多治見駅から敷地までたくさん使われている地域で、ふつうに使ったってタイルの博物館らしくはならない。

ふつうでなくタイルを使った例として思い出すのはスペインのガウディで、割ったタイル片を大量に投入して衝激的表現を生んでいるが、あんな真似はガウディのスペイン的造形力のたまもの。真似た例はどれも失敗している。

ふつうに使ってはタイルをテーマとしているとは見えないし、ガウディ的表現はガウディで尽きている。私の想像力も創造力も、タイル壁に阻まれ行き詰まってしまった。

タイル壁の前で行き詰まり、あれこれ悩んでいるうちに、“タイルを使わなければいい”と思い到了。全面的に使おうとするからふつうのタイル張りの建物とガウディが壁として立ちあがるから、ガウディを省略してチョコッとだけタイルを使うことにしよう。タイルの原料である土を全面的に見せ、割ったタイルをその土の中にあたかも土中に混じる石コロのように点々と見せればいい。

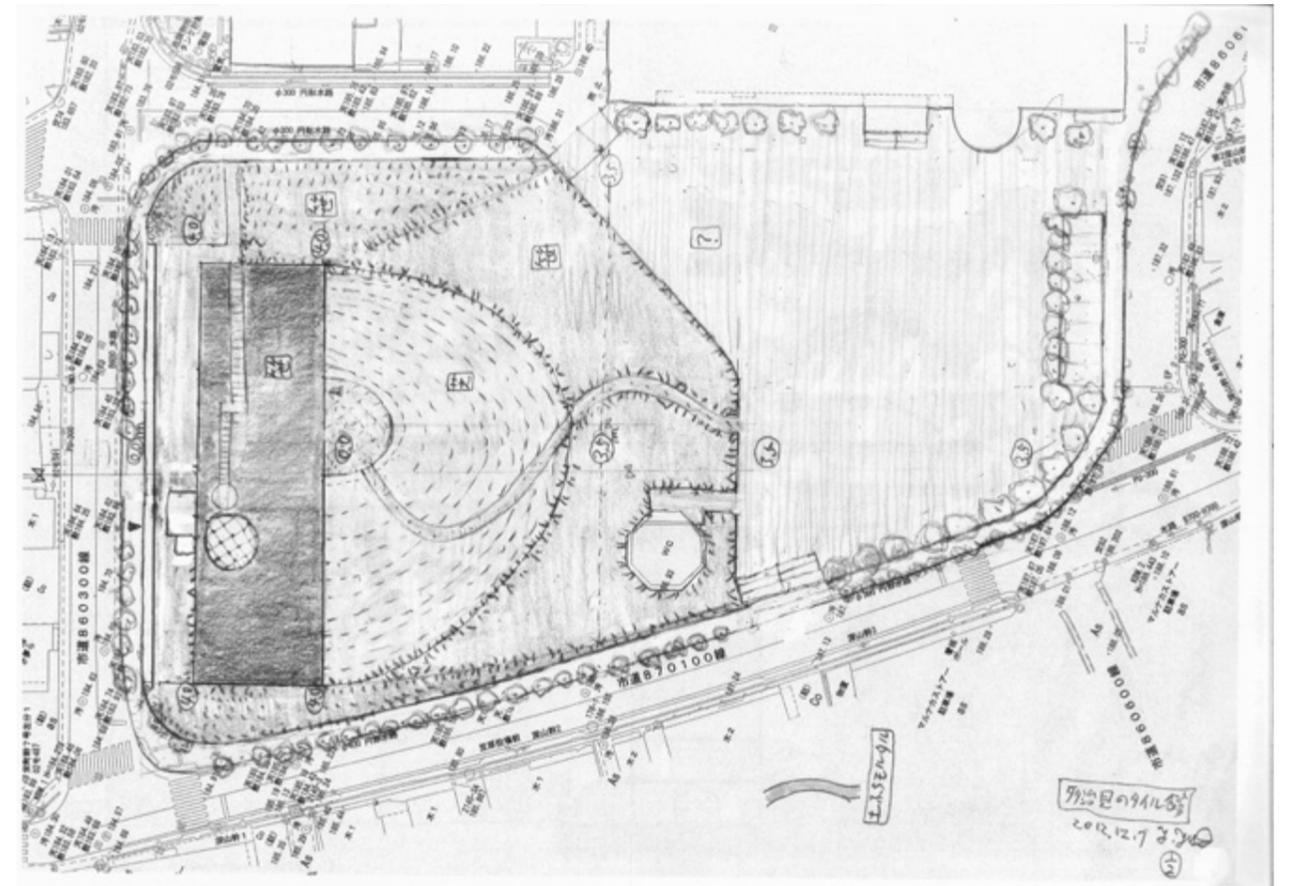
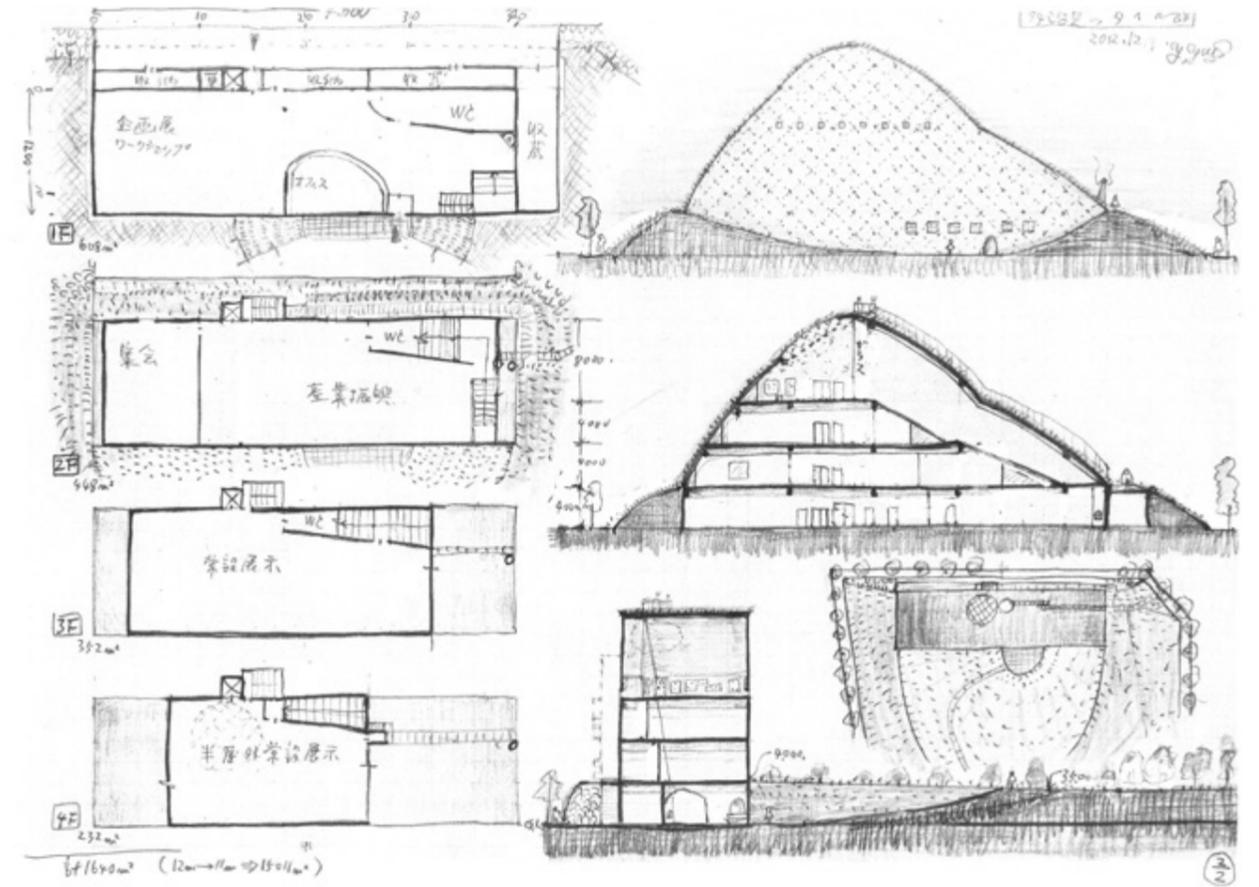
しかしそれだけでは淋しいので、何か一つ世界初のタイル利用を、と考え、思いついたのは“線状のタイル利用”だった。夏休み、信州の田舎の家に各務さんから各種モザイクタイルとタイル用ボンドを送ってもらい、試すとうまくいく。

かくして建物は出来たものの、はたして人は来てくれるのか。はなはだ心配なので初代館長に就く各務さんに聞くと、「開館をにらんで一年間、伝手を頼って各地の小ギャラリーで催したモザイクタイル展の感触は良好だから…」との返事。でも顔は心配そう。

そして2016年6月4日が来て開館すると、大勢が押し寄せてくれた。

この大成功の要因としては、①今となっては貴重な歴史的タイルを大量に収集していたこと、②モザイクタイルを小物に貼るというワークショップを用意したこと、③建築が来館者の関心を引いたこと、の三点が大きいと思う。

そしてこの三つを可能にしたのは、笠原という隠れ里のような場所の陶磁器産業が育んだ人の力にちがいない。



藤森照信 モザイクタイルミュージアムスケッチ 2012年 茅野市美術館蔵

目次

あいさつ	6
目次	8
多治見市モザイクタイルミュージアムとは	9
多治見市モザイクタイルミュージアム 開館までの経緯	10
モザイクタイルミュージアムの開館イベント	12
一般財団法人たじみ・笠原タイル館企画運営委員会主催事業（2014～2016）	14
開館記念式典	15
オープニング記念イベント	15
館内図	17
常設展示	18
企画展示	20
一般財団法人たじみ・笠原タイル館 プロジェクト会議主催事業	28
一般財団法人たじみ・笠原タイル館 タイル産業振興事業	32
開館前の収集活動と主な収蔵品	35
開館後の収集活動	37
収蔵品選定評価委員会 要綱	38
施設利用状況	39
施設関係印刷物	42
広報記録	43
組織	45
多治見市モザイクタイルミュージアム建築基本情報	46
条例	48
多治見市モザイクタイルミュージアム ロゴマークについて	51
利用案内／アクセス	52



なぜか、ふしぎな、うつくしさ。

多治見市モザイクタイルミュージアムとは

2016（平成28）年6月、岐阜県の東南に位置する多治見市笠原町に開館したタイルの博物館。同地は施釉磁器モザイクタイル発祥の地であり、現在では国内のシェア80%以上を誇るモザイクタイルの生産地です。地元の有志の方々は、20年以上にわたり自ら資料の収集に奔走し、博物館の設立へ尽力してきました。その活動に共感した建築家・藤森照信氏によるユニークな外観の建築は、タイルのファンのみならず多くの来場者を集めています。



モザイクタイルミュージアムのミッション

①モザイクタイルの魅力を伝える。

小片を寄せ合わせ絵（図像）や模様を表すことによって、不思議な美しさ、懐かしさを作り出すモザイクタイルの魅力を伝えます。

②「発見」⇒「交流」⇒「発信」する。

モザイクタイルの小片を集めるように、あるいは暮らしの中にタイルを見つけるように、様々な出来事に目を向け、つなげ、豊かな未来絵図を描いていきます。

③地域を元気にする。

この豊かなタイルの文化を地域の誇りとして、モザイクタイルのあるスタイルを世界に発信していきます。

多治見市モザイクタイルミュージアム 開館までの経緯

和暦	西暦	建設関連事項
平成3年	1991	この頃、山本正之氏、常滑市にタイルのコレクションを寄贈（1997年にINAX世界のタイル博物館開館）
平成7年	1995	この頃、笠原商工会・地場産業振興委員会でタイル博物館構想を議論 タイルの収集活動を始め（協力企業約100社） 提言書を笠原町に提出（笠原商工会・地場産業振興委員会） →タイル産地としての景観づくり、タイルを積極的に使える助成制度、タイル博物館
平成11年	1999	『月刊タイル』に「座談会 タイルの博物館をめぐる思い」掲載
平成13年	2001	1月29日、タイル博物館も考慮した複合型「道の駅」構想提言書—笠原町議会「あすの笠原を考える会」 6月、モザイクタイルの展示館整備活用構想—（株）グリーンシグマ
平成14年	2002	3月、賑わいのまちづくり事業報告書—笠原町「すくらむの会」 3月、笠原町「（仮）タイル文化センター建設基本構想」報告書—笠原町（仮）タイル文化センター建設推進協議会 7月、3市1町合併協議会発足
平成16年	2004	1月25日、住民意向調査→3市1町の合併は反対 4月1日、多治見市、笠原町に、合併研究会の立ち上げ 5月10日、多治見市へ合併協議の申し入れ 7月1日、多治見市・笠原町合併協議会発足 →「道の駅・（仮）日本タイル村整備」計画化を検討 12月、合併協定書の調印（新市建設計画策定）
平成18年	2006	1月23日、多治見市・笠原町合併、新市建設計画スタート 7月、「道の駅・（仮）日本タイル村整備検討委員会」設置 →整備条件を検討（※平成20年7月まで、計10回開催）
平成20年	2008	4月、多治見市第6次総合計画スタート 産業観光施策の基本事業に「（仮称）日本タイル村整備事業」（運営体制等の諸条件を整えたうえで） 8月、多治見市道の駅・（仮）日本タイル村整備委員会から提言 歴史文化を次世代に継承、産業観光による活性化、資源認知度の向上、地域の交流の場という設立目的、指定管理者制度による運営という方向性

和暦	西暦	建設関連事項
平成21年	2009	12月、一般財団法人たじみ・笠原タイル館設立 道の駅構想は廃止し、建設地には旧笠原町庁舎跡地を第一候補とする
平成22年	2010	3月、庁内組織「（仮）日本タイル館検討委員会」設置（※6回開催）
平成23年	2011	5月、「（仮称）日本タイル館基本構想」策定 →「（仮称）日本タイル館整備推進委員会」設置（※4回開催）
平成24年	2012	3月、「（仮称）日本タイル館基本計画（案）」策定 4月、多治見市嘱託職員として建設担当者を雇用 8月、「（仮称）日本タイル館建設事業共同企業体 設計者選定審査」参加申請 10月、「（仮称）日本タイル館建設事業共同企業体 設計者選定審査」実施
平成26年	2014	4月、多治見市嘱託職員として展示担当者を雇用 5月27日、国際デザインセンター（名古屋）にてプレス発表会 正式名称「多治見市モザイクタイルミュージアム」として発表 8月28日、起工式（図版参照） 工事着手（外構、タイル広場）
平成27年	2015	1月、旧笠原町役場庁舎解体工事着手 4月、非公募により、指定管理者の選定を行うものとして選定要領などを公表 建築本体着工 8月、指定管理者候補団体として、一般財団法人たじみ・笠原タイル館を選定 9月議会において一般財団法人たじみ・笠原タイル館を指定管理者として議決
平成28年	2016	3月、竣工 6月3日、竣工式及び開館記念式典、内覧会 6月4日、一般開館

起工式の様子



モザイクタイルミュージアムの開館イベント

2014(平成26)年度

1. 一般財団法人たじみ・笠原タイル館企画運営委員会による見学会の開催

2014年5月16日

スタジオ・マーヴォ、柴田一左衛門窯

2014年5月22日

滋賀県立陶芸の森 創作研修館

2014年10月16日

美濃加茂市民ミュージアム

2. プレス発表会の開催

期日/2014年5月27日 午後1時30分～

場所/国際デザインセンター

主催者あいさつ、来賓あいさつ、施設概要説明
講演

藤森照信(建築史家、建築家)「モザイクタイルミュージアムの設計・デザインについて」
辻孝二郎(モザイクタイルミュージアム企画
展示専門員)「モザイクタイルの歴史」



3. 名城大学工学部建築学科 谷田研究室 ワークショップの開催

開催日/2014年7月17日

4. 多治見市モザイクタイルミュージアム プレ展示Vol.1 「藤森照信とタイルと多治見」展

藤森照信が15年前に多治見で実施した路上観察をもとに、多治見市内でタイル目線の路上観察を写真で表現。

協力/建築表層研究所テグラ

会期/2014年8月2日～16日

会場/まなびパークたじみ

オープンギャラリー

来場者/687人



5. 文化庁平成26年度文化芸術振興費補助金(地域と共同した美術館・歴史博物館創造活動支援事業)

「建築装飾としてのタイル・陶壁が生きる街を記録と記憶に残すプロジェクト」に多治見市(仮称タイル館準備担当)としてオブザーバー参加(実行委員会/愛知県陶磁美術館、INAXライブミュージアム、博物館明治村)

1) アーカイブのシステム構築

2) タイル・陶壁の調査と整理

3) 情報発信(シンポジウム開催11月8日)、
共有事業(写真展開催11月26日～30日)

公募写真展

「タイル・陶壁が生きる街とわたしたち」

主催/タイル・陶壁プロジェクト

実行委員会

会場/中産連ビル

(名古屋市東区白壁三丁目)

会期/2014年11月26日～30日

多治見市役所駅北庁舎にて巡回開催

会期/2015年3月22日～29日

6. 多治見市モザイクタイルミュージアム プレ展示Vol.2 「モザイクタイル 作り手、使い手」

モザイク浪漫館の資料と藤森先生のモザイク

タイルミュージアム建築スケッチを展示

会期/2015年2月7日～3月29日

会場/多治見市美濃焼ミュージアム

ギャラリーS-1及び中庭

来場者/872人



関連企画/藤森照信講演会

「藤森先生、タイルを見る、使う」

関連企画来場者/120人



2015(平成27)年度

1. 多治見市学習館・多治見市モザイクタイルミュージアム連携事業 タジミとタイル その1

「まちかどタイル観察会」

多治見の市街地で目にすることのできるモザイクタイルを観察しながら散策する。

また、市内のタイルのある風景写真を展示するとともに、市内にかつてあった工場を地図に示す。

展示/2015年5月1日～31日

来場者/約900名

観察会/2015年5月23日

観察会参加者/17名

講座/「街中のタイルを探る」

2015年6月18日

講座参加者/約120名



2. 多治見市学習館・多治見市モザイクタイルミュージアム連携事業 タジミとタイル その2

「グセアルス展」



陶片に残された図柄を用いて模様を作り、絵画作品を展開する。今回は事前に多治見市内(土岐川河川敷など)で陶片を拾い、そこからタイルに焼き付ける新作を制作、展示した。

展示会場/まなびパークたじみ

1階オープンギャラリー

来場者/958名

会期/2015年10月17日～11月8日

ワークショップ/1回目 10月25日

2回目 11月1日

ワークショップ参加者/20名(2回で完成)

陶片やタイルを用いた表現活動をするアーティストユニット、「グセアルス」に協力をいただき、ワークショップと展覧会を開催する。

3. 共同作業「藤森建築の作り方」ワークショップ

建築家、藤森照信からの提案で、一般参加を募り、モザイクタイルミュージアムの敷地付近の公衆トイレの外壁にタイルの設置作業をした。併せて工事中の館内1階部分を見学した。

開催日／2015年11月25日
参加者／24名



4. 文化庁平成27年度文化芸術振興補助金（地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業）

「建築装飾としてのタイル・陶壁が生きる街を記録と記憶に残すプロジェクト」実行委員会に正式参加

- 1) タイル・陶壁の調査と整理（制作現場調査）
- 2) 成果報告（アーカイブのウェブ紹介コンテンツ作成）

- 3) 一般に向けた情報発信、共有事業
写真とフロタージュ展開催
会場／笠原中央公民館ロビー
会期／2015年11月18日～12月5日
シンポジウム開催
期日／2015年11月15日
まち歩き
名古屋／2015年11月22日
多治見／2016年1月29日、2月13日

一般財団法人たじみ・笠原タイル館企画運営委員会主催事業（2014～2016）

①「モザミュ通信」No.0～4の発行

笠原町の方々に、モザイクタイルミュージアムについて知っていただき応援していただくための情報通信として、印刷版は町内回覧板と公共施設への配架、データ版は応援サイトに公開した。



②国際陶磁器フェスティバル美濃

モザイクタイルミュージアム PR ブース
タイル貼り体験コーナー
花咲け！「モザイクタイルミュージアム」！
開催日／2014年9月14日
会場／セラミックパーク MINO

③まなパーフェスティバル

モザイクタイルミュージアム PR ブース
パネル展示、物品販売、タイルの詰め放題、記念品プレゼントを実施。
開催日／2015年3月29日
会場／ヤマカまなびパーク

④「昭和レトロタイル 本と博物館の予告編」展

企画／加藤郁美
倉敷意匠アチブランチ
(2015年6月27日～7月26日)
長崎 List: (リスト) (2015年10月3日～11日)
日本陶磁器センター (2015年11月26日～29日)
恵文社一乗寺店 / ギャラリーアンフェール
(2016年4月19日～25日)

⑤モザイクタイルミュージアム応援サイト及び Facebook による情報発信

開館記念式典

期日／2016（平成28）年6月3日（金） 午前10時～
場所／笠原中央公民館ホール（式典）・モザイクタイルミュージアム前 タイル広場（テープカット）

- 開館記念式典開式
- 主催者挨拶
- 来賓祝辞、来賓紹介
- 設計者（藤森照信）挨拶
- 建設発起人挨拶
- 決意表明
- 寄附者紹介
- 祝電披露
- 合唱披露
- 閉式
- テープカット
- 内覧会



オープニング記念イベント

多治見市モザイクタイルミュージアム 開館記念
山下洋輔 スペシャルカルテット ジャズコンサート
YOUSUKE YAMASHITA SPECIAL QUARTET JAZZ CONCERT

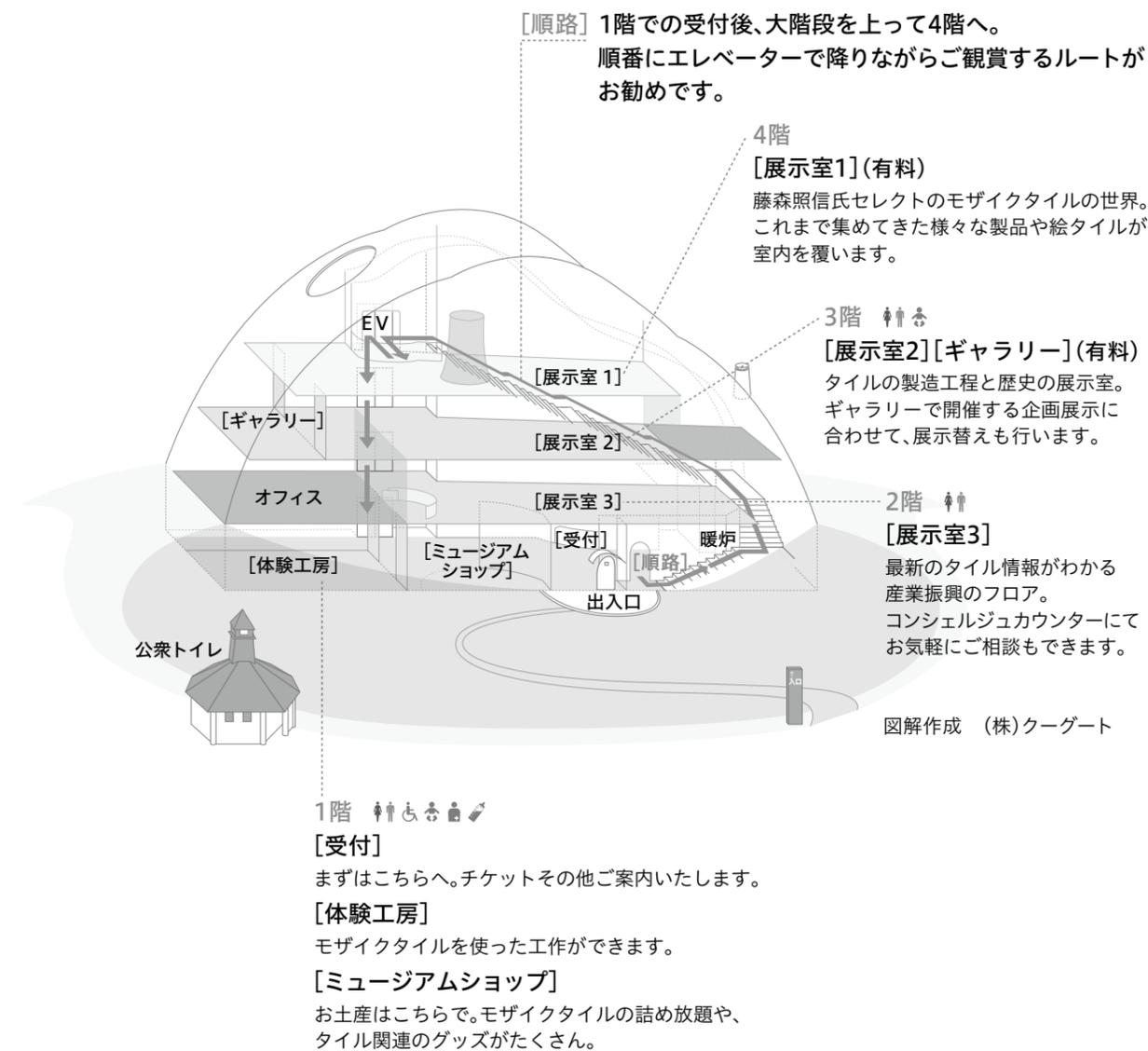
多治見市モザイクタイルミュージアムの開館を記念した、スペシャルジャズコンサートを開催しました。
出演は、山下洋輔 [ピアノ]、池田篤 [アルト・サクソ]、水谷浩章 [ベース]、高橋信之介 [ドラム]、そして、スペシャルゲストとして森山威男 [ドラム] が登場。
1日限りの贅沢なジャズセッション。

日時／2016（平成28）年8月13日（土）
開場／午後2時30分
開演／午後3時30分
会場／多治見市笠原中央公民館 アザレアホール
(多治見市笠原町2081-1)
料金／3,000円（税込、全席自由）
※未就学児入場不可
来場者数／422名





館内図



常設展示

モザイクタイルミュージアムには2階から4階まで3つの展示室があり、それぞれの階でタイルの異なる表情を感じることができます。

4階

薄暗い大階段をのぼり、4階の扉が開くと、床から天井まで白いタイルに覆われた空間が広がります。台座の上や壁面にちりばめられているのは、地元を中心に各地から収集されてきたモザイクタイル画の壁面、銭湯の絵タイル、洗面台や浴槽な

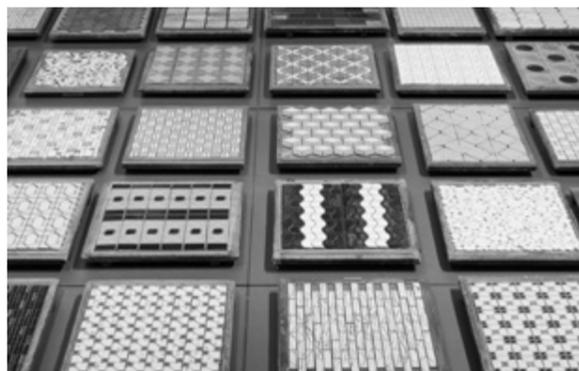


ど。昭和時代には日常風景の中に溶け込んでいたようなタイル製品が、藤森照信氏のディレクションにより、見たことのないような非日常の空間を作り出しています。



3階

3階展示室は、多治見のモザイクタイルの製造工程や歴史がたどれるコレクションの展示。タイル産業の歩みを記した年表や今となっては貴重な昭和のタイルの見本、そして製造工程と歴史を説明する映像も流れています。併設のギャラリーでは、



タイル産業や歴史、アートなどに関する独自のテーマを設けて、年間3回程度の企画展示を行っており、コレクション展示の方もそのテーマに合わせて展示替えを行っています。



2階

2階展示室は、一般財団法人たじみ・笠原タイル館が多治見市から賃借し、直接管理する産業振興エリアです。開館までの間に、レイアウトや展示方法について、当時の財団企画運営委員会のメンバーが中心となり何度も協議が繰り返されました。開館当初は、天井から吊るした、あるいはテーブルや床に設置した大小各種のパネルに、協賛企業のタイルを配置して、毎年新しい商品へと入れ替えながら、自社のアピールができるように工夫さ



れました。一角にはカウンターのような設えに150枚以上ある30センチ角のパネルが並び、レコード盤のようにタイルを選べる仕組みが作られ、テーブルでゆっくり閲覧できる空間となりました。コンシェルジュカウンターには、タイル商社の営業OBがコンシェルジュとして勤務し、直接ユーザーの問い合わせや希望を聞きながらタイルの注文を受けて、地元の商社などにつながることもできる画期的な交流の場となりました。



1階

体験工房では、常時来館者が体験できる工作のプログラムを運営しています。

通常プログラム

- ワンコイン工作（複数種類の小物から選び、モザイクタイルを接着剤で貼り付けて飾る工作）
- 貼子体験（土日祝、午後1時30分～貼り板を使ってタイルシートを制作。2017年9月から休止）



期間・人数限定プログラム

- 蚊やり豚づくり（講師／大平伸二 2016年、2017年夏休み企画）
- 植木鉢づくり（2017年夏）
- 目地込め体験（2017年春）
- インテリアミラーづくり（2018年春）
- ティッシュボックス（2018年夏）
- ウッドボード（2018年冬）



企画展示

3階ギャラリーを会場にテーマを設定して企画展示を開催しています。
あわせてコレクションの展示も入れ替えを行います。

2016(平成28)年度[2016年6月～2017年3月]

●展覧会名 開館記念企画展

Echoes Infinity 永遠なる物語 Shinji Ohmaki

会期/2016年6月3日～8月28日

日数/75日

来場者数/42,633名

気鋭の現代美術家、大巻伸嗣が、モザイクタイルを独自の視点で解釈し、市民参加のプロセスを通して展示空間を作りました。会場には大巻氏の解釈する「モザイク」の世界観が表現され、中でも言葉の印刷された紙をつないでいく言葉のモザイクは、多くの来場者が楽しみました。

関連企画

1. 大巻伸嗣ワークショップ

講師/大巻伸嗣

日程/4月16日、17日

会場/笠原中央公民館

参加者/約50名

2. 作品制作ワークショップ

日程/4月26日～5月20日

会場/モザイクタイルミュージアム3階

参加者(延人数)/124名

3. 大巻伸嗣ワークショップ

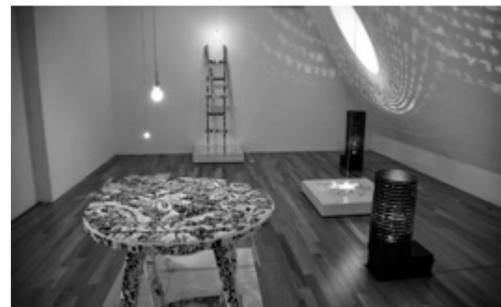
講師/大巻伸嗣

日程/6月4日、5日

会場/モザイクタイルミュージアム

体験工房

参加者/31名



「しあわせなお家」(旧カネ鹿大岩鹿平商店貼場)でワークショップで制作した参加者の作品を展示。

●展覧会名 岐阜県地域活性化ファンド助成 タイル産業を支える工場の魅力発信・交流事業 特別展 工場賛歌～原料編

会期/2016年9月17日～12月18日

日数/80日

来場者数/37,796名

本展は、タイル産業を支える工場を紹介する事業の一環として、原料とその工場をテーマとする企画。かつて笠原で採掘されていた原料に始まり、昔の鉱山の作業風景や古い道具、現在の工場の写真や実際に使われている原料そのものを展示し、生産の苦労や工夫を伝えます。また、タイルの坯土などに触れることで、子供たちにも興味と親しみを持てる展示になりました。

関連企画

1. ファインダー越しの工場見学

講師/小寺克彦(グラフィックデザイナー)

日時/9月22日(木・祝)

午前9時30分～午後2時

見学場所/有限会社YMM、杉浦製陶株式会社

参加者/10名

2. まち歩きタイルツアー

(美濃焼こみち協賛事業)

日時/10月15日(土) 午後1時～4時

参加者/13名

3. タイルの源流 原料工場見学

日時/10月21日(金)

午前9時30分～午後0時20分

見学場所/株式会社ヤマセ、粘土鉱山

参加者/13名



4. 文化の日ギャラリートーク

語り手/各務寛治

(モザイクタイルミュージアム館長)

日時/11月3日(木・祝)

午後1時30分～2時30分

参加者/約30名

5. ワークショップ 大地のタイルを作る

日時/11月20日(金)

①午前10時、②午後2時

会場/体験工房

講師/伊村俊見

協力/岐阜県立多治見工業高校専攻科

参加者/18名



6. トーク&デモ 近代建築のタイルに迫る

日時/12月3日(土) 午前10時～12時

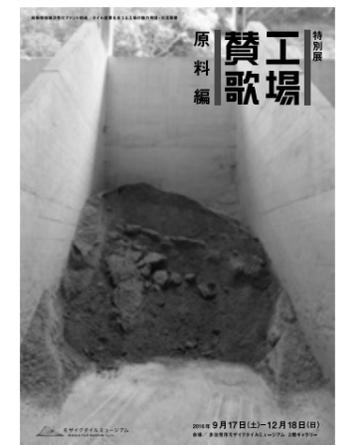
会場/体験工房

協力/谷田真(名城大学建築学科)、

株式会社谷口製陶所、

協同組合ケーエスジー

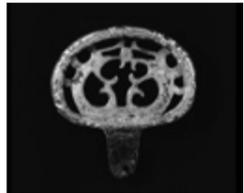
参加者/12名



●**展覧会名 特別展 笠原のたからもの～地域の文化と担い手たち**

会期／2017年1月4日～4月16日
 [2017(平成29)年度にかかるとある]
 日数／74日
 来場者数／32,820名

本展は、タイル製造が始まる以前から、笠原町の文化を形成してきた様々な文化遺産、および守り伝えてきた文化人たちを紹介する展覧会です。多治見市文化財保護センターに保管されている資料を借用。行方不明と言われていた狐塚古墳出土の金銅製柄頭を奈良県天理大学天理参考館から借用し、東京大学総合研究博物館の勾玉や耳環を加えて130年ぶりに地元での展示となりました。



狐塚古墳出土 金銅製柄頭
 天理大学附属天理参考館蔵



狐塚古墳出土 耳環
 東京大学総合研究博物館蔵

関連企画

1. 講演会「素晴らしい織部を見た！」
 日時／3月11日 午後1時30分～3時
 会場／笠原中央公民館3階会議室
 講師／竹内順一(東京芸術大学名誉教授)
 参加者／約50名
2. まち歩き「笠原の文化財巡り」
 日時／3月26日 午後1時30分～4時
 講師／奥村高史(元笠原町文化財調査員)
 参加者／13名



2017(平成29)年度[2017年4月～2018年3月]

●**展覧会名 特別展 大坪高明の「タイル」と絵タイル職人の手わざ**



会期／2017年4月29日～8月13日
 日数／92日
 来場者数／65,969名

職人による「絵タイル」を紹介する特別展であり、多治見市美濃焼ミュージアムで開催され

るナカヤマの企画展と時期を合わせて連携企画として開催し、相互のチラシに案内を掲載するなど協力しました。当館としては、高級洋食器ブランド「ナカヤマ」にも携わった絵付け師、大坪高明さんの技術をひとつの手掛かりに、3人の絵タイル職人のしごとに焦点を合わせ、絵付けをしている映像なども用いながら、モザイクタイルとは違った手わざの世界を紹介しました。



関連企画

1. 絵タイルを描いてみよう
 講師／大坪高明
 日程／5月27日(土) 午前10時～
 会場／体験工房 参加者／10名
2. モザイクタイルに絵を描いてみよう
 講師／大坪高明
 日程／7月1日(土) 午前10時～12時

- 会場／体験工房
 参加者／10名
3. タイルでぬりえ
 講師／堀部良明
 協力／ボイスオブセラミックス
 日程／7月15日(土) 午前10時～12時
 会場／体験工房
 参加者／11名

●**展覧会名 岐阜県地域活性化ファンド助成 特別展 タイル産業を支える工場の魅力発信・交流事業 工場賛歌～釉薬編**



会期／8月26日～11月26日
 日数／80日
 来場者数／51,458名

昨年度に引き続き、タイル産業を支える工場の魅力発信・交流事業として、岐阜県地域活性化ファンドの助成を受けて開催した企画。岐阜県窯業原料協同組合の協力を得て、テストピースや写真、古い道具類などにより、タイルの釉薬工場の歴史と現在を紹介するとともに、ワークショップや工場見学などを含む6本の関連企画を通して、より深く製造工程に触れていただくことができました。



関連企画

1. 世界に一つの釉薬を作る
 講師／手島敦(岐阜県立多治見工業高校)
 日時／8月26日(土) 午前10時～12時
 会場／体験工房
 参加者／10名
2. タイルで学ぶ
 カラーマジック簡単テクニック
 講師／住吉佳子(カラーリスト)
 日時／9月9日(土) 午前10時～12時
 会場／体験工房
 参加者／11名
3. 釉薬工場の社長に「釉薬」を聞く
 講師／水野清司(株式会社カクジン)
 日時／10月14日(土) 午前10時～12時
 会場／ミュージアム2、3階
 参加者／21名
4. 工場見学「タイルの色の作り方」
 日時／10月20日(金) 午前10時～午後2時
 見学場所／杉浦製陶、株式会社カクジン
 参加者／10名
5. ファインダー越しの工場見学～釉薬編
 講師／小寺克彦(グラフィックデザイナー)
 日時／11月4日(土)
 午前9時30分～午後4時
 見学場所／日研、水野化学工業
 参加者／7名
6. 「ゆうやく教室 お料理みたいに色をつくろう」
 講師／菊本愛生
 (多治見市陶磁器意匠研究所)
 日時／11月18日(土) 午前10時～12時
 会場／体験工房
 参加者／6名

●展覧会名 特別展 陶磁器試験所と近代の建築装飾



会期／12月9日～2018年3月4日
 協力／愛知県陶磁美術館
 日数／69日
 来場者数／20,991名

かつて京都にあった国立の陶磁器試験所における試作品などを借用して、笠原の施釉磁器モザイクタイルを開発した山内逸三が触れたであろう近代の建築装飾を展覧しました。コレクション展示のコーナーでも、前年寄贈された旧同信会館のテラコッタをはじめとする建築装飾を並べて、説明パネルを添えることで、来館者の理解が深まるように努めました。

関連企画

1. 見学ツアー「名古屋近代建築観察会」
 講師／村瀬良太（建築史家）
 日時／1月27日（土）午後1時～5時
 見学場所／名古屋市内
 参加者／27名
2. 見学×講義「陶磁器試験所のタイル製作」
 講師／佐藤一信
 （愛知県陶磁美術館学芸課長）
 日時／2月10日（土）午後1時30分～3時
 会場／笠原中央公民館及び
 モザイクタイルミュージアム3階
 参加者／24名
3. ワークショップ「モダンなタイルの作り方」
 講師／児山朋克
 （有限会社ケラモスアート）
 日時／2月25日（日）午後1時～4時
 会場／愛知県陶磁美術館
 参加者／12名



●展覧会名 特別展 東京の銭湯とタイル～おとめ湯をめぐって～



会期／2018年3月17日～6月10日
 [2018（平成30）年度にかかる]

企画協力／文京建築会ユース
 後援／東京都公衆浴場業生活衛生同業組合
 日数／74日
 来場者数／39,482名

4階展示室に設置されているおとめ湯の絵タイルを起点に、寄贈されるきっかけとなった文京建築会ユースによる東京の銭湯の特徴や魅力を記録、保存する活動を紹介する展示。解体に至る経緯を表した写真パネルや、洗い場の再現など、同会が5年前に東京で開催した展示の一部を再現展示しました。また、コレクション展示にも銭湯の関連資料を展示しました。

文京建築会ユース主催事業
 （関連企画として東京で実施）

1. ご近所のぜいたく空間“銭湯”
 — 東京の銭湯とまちツアー 編
 日時／3月4日（日）午前11時～午後5時
 場所／東京都内
 参加者／約20名
2. ご近所のぜいたく空間“銭湯”
 — 東京の銭湯とペンキ絵ライブ編
 日時／3月18日（日）午前11時～午後4時
 場所／東京都文京区
 参加者／約50名

関連企画

1. 対談「銭湯の建築と文化」
 講師／町田忍（庶民文化研究所所長）、
 米山勇（江戸東京博物館研究員）
 日時／5月19日（土）午後1時30分～3時
 会場／笠原中央公民館会議室1
 参加者／56名

2. 見学ツアー「林丈二さんとまち歩き～むかし銭湯があったまちで」
 講師／林丈二
 協力／文京建築会ユース
 日時／5月20日（日）午前10時～午後4時
 会場／笠原中央公民館視聴覚室
 及び笠原町内
 参加者／32名



2018(平成30)年度[2018年6月～2019年3月]

●展覧会名 特別展 敷瓦の世界—「タイル」の前の物語



会期／6月23日～9月24日
 日数／81日
 来場者数／46,633名

前年度地元の加藤家から敷瓦を多数寄贈いただいたことをきっかけとする特別展。瀬戸で作られた施釉の製品を中心とする、幕末から大正

時代の敷瓦や、使用例の写真、製造道具などを紹介しました。INAXライブミュージアムや瀬戸蔵ミュージアムから資料を借用し、瀬戸の窯元で撮影した古来の敷瓦製作の写真を展示するなど、多角的に紹介しました。

関連企画

1. 見学ツアー「敷瓦のふるさと、瀬戸をめぐる」
 講師／服部文孝（瀬戸市美術館館長）
 日時／7月21日（土）午前10時～12時
 場所／瀬戸市内
 参加者／17名
2. ワークショップ「敷瓦とお茶席」
 講師／加藤亮太郎（幸兵衛窯8代目）
 日時／8月18日（土）午後1時30分～4時
 場所／モザイクタイルミュージアム3階、
 幸兵衛窯
 参加者／10名

3. ワークショップ「ちょこっと体験 敷瓦」
 講師／7代目水野半次郎
 日時／9月1日（土） 午前10時～12時
 場所／体験工房
 参加者／11名



●展覧会名 特別展 まちかどの近代建築写真展～タイルに出会う旅～



会期／10月6日～2019年1月20日
 日数／87日
 企画協力／まちかどの近代建築写真展実行委員会
 来場者数／37,283名

全国で巡回開催されてきた、名もなき身近な近代建築の愛好家による写真展。当館を会場とするに当たっては、コレクションから選んだタイル資料とのコラボレーションと、特集コーナーとして宮城県石巻市のタイルの館、旧観慶丸商店を取り上げた展示を加えました。そして、2019（平成31）年4月には、旧観慶丸商店において同展の巡回展示が開催され、当館の資料も貸し出しをしました。

関連企画

1. 見学ツアー「たじみ・近代建築めぐり」
 講師／岡崎紀子、
 名古屋スリパチ学会世話人
 （古橋和佳、杉田義也、加美秀樹）
 日時／10月6日（土） 午後1時～4時
 場所／多治見市内
 参加者／27名
2. ギャラリートーク
 「津波に耐えたタイルの館」
 一宮城県石巻市・旧観慶丸商店—
 講師／津村泰範（長岡造形大学）、
 勝邦義（ISHINOMAKI2.0）
 日時／10月7日（日） 午後1時30分～3時
 場所／笠原中央公民館3階
 参加者／26名



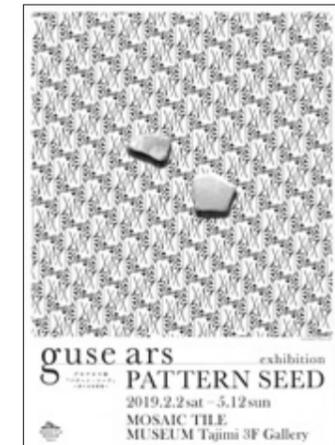
●展覧会名 特別展 グセアルス展 パターン・シード～漂う未来模様～

会期／2019年2月2日～5月12日
 [2019（平成31）年度にかかる]
 合計日数／86日
 企画協力／guse ars
 来場者数／20,219名（3月末まで）
 （5月12日までの会期中来場者合計／41,519名）
 河原や海岸で拾った陶磁器の欠片を基に、新たなデザインを生み出す2人組のアーティスト・

ユニット「グセアルス」の作品展。多治見市美濃焼ミュージアムや文化財保護センターが所蔵する陶磁器片や、陶磁器片の元の模様を探って見つけた明治から昭和時代の染付食器などを並べて過去から未来へと繋がっていく模様の連鎖を表現しました。

関連企画

1. ワークショップ
 「カケラ模様のタイルづくり」
 講師／グセアルス（村橋貴博・岩瀬敬美）
 1回目 日時／3月16日（土）
 午後1時～3時
 参加／16名
 2回目 日時／3月21日（木・祝）
 午前10時～12時
 参加／20名
 会場／笠原中央公民館3階



一般財団法人たじみ・笠原タイル館 プロジェクト会議主催事業

文化事業

2016(平成28)年度

1. neon art exhibition by tetsuo abico APPRECIATE

京都を拠点とするネオンアーティスト、安彦哲男氏の作品を、3階の一角に暗室を作って展示。

屋外の展示は日暮れとともに点灯し、ミュージアム周辺を光によって彩りました。

NEON FOREST

会場／モザイクタイルミュージアム

エントランス外周

会期／10月12日～10月30日 午後5時～9時

TILE in NEON ART

会場／モザイクタイルミュージアム 3階倉庫

会期／10月12日～11月27日

午前9時～午後5時



2. 藤森先生のワークショップ「タイルのすだれを作ろう」

水戸芸術館で2017年3月より開催される藤森照信展に出品した「タイルのすだれ」を、一般参加者を募って製作しました。

日時／10月20日 午後1時～4時、

10月21日 午前9時～12時

会場／モザイク浪漫館（多治見市笠原町内）

参加者／約50名



3. 来場者数10万人達成記念式典

開館以来の総来館者数10万人達成を記念して、多治見市長等も臨席のもと、記念品（プレート、年間パスポートなど）の贈呈、記念撮影等を行いました。

開催日／2017年2月18日



4. タイルはりたいけん～段ボール人間をタイルで飾ろう！

1階ロビーに常設されているモザイクタイルカーを水戸芸術館に貸出した期間中、空いたスペースで、アーティスト大崎智仁による段ボール人間を展示し、来館者がモザイクタイルを少しずつ貼り付けて飾りました。

期間／2017年3月7日～5月16日

（参加は平日のみ、38日間）

会場／モザイクタイルミュージアム

1階ロビー

2017(平成29)年度

1. 開館1周年記念 ナイトミュージアム「モザイクタイルと星空の夕べ」

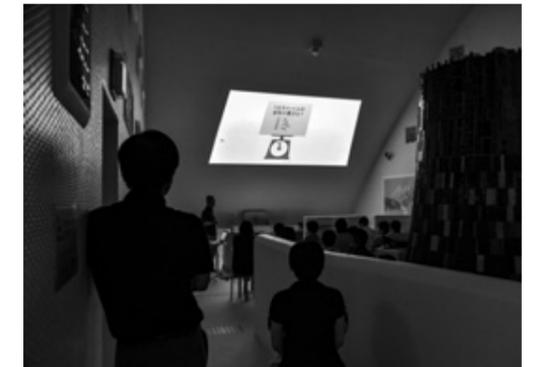
4階展示室の夜間開館と同時に、天文学の専門家によるスライドレクチャーを実施しました。

日時／7月28日（金） 午後7時～8時

講師／岩田実

会場／モザイクタイルミュージアム 4階

参加者／約40名



2. タイルはりたいけん～段ボール人間をタイルで飾ろうII

期間／10月3日～12月10日

（はりたいけん参加は平日のみ=38日間）

作者／大崎智仁（造形作家）

会場／モザイクタイルミュージアム 2階

参加者（延べ人数）／406名



2018(平成30)年度

1. 来場者30万人記念タイルの配布

実施日／2018年4月3日



2. 開館2周年記念藤森照信講演会「自然を生かした建築」

開館2周年を記念し、「藤森建築」として愛される作品の背景にあるものや、こだわりについてお話しいただきました。

日時／6月5日（火） 午後3時～4時30分

講師／藤森照信

後援／多治見市、多治見市教育委員会

会場／笠原中央公民館アザレアホール

参加者／376名



3. 「多治見るこみち」参加企画 「工場賛歌～見学編」

多治見市観光協会主催イベント「多治見るこみち」のプログラムの一つとして工場見学を実施。全3回のコースを設定しました。

「原料と釉薬を知る」

日時／10月18日（木） 午後0時40分～4時頃

参加者／8名

「製造工程一巡り」

日時／11月6日（火）

午前10時40分～午後3時30分頃

参加者／9名

「湿式と乾式を知る」

日時／11月23日（金・祝）

午前9時30分～12時頃

参加者／10名

4. ナイトミュージアム×コンサート

閉館後の4階展示室を会場に、ジャズ・ポップスのコンサートを開催しました。

日時／10月28日 午後6時30分～8時

出演／オノマトペル

会場／モザイクタイルミュージアム

4階展示室

参加者／42名



5. 「まちなかタイル発見」ツアー及びレポート展示

笠原中央公民館結成の「かさはら探検隊」と、「陶都街並探偵団」の協力でワークショップを開催。「かさはら探検隊」の小学生と共に笠原町内でタイルを探して歩き、フロッタージュを実施。この時に撮影した写真を用いて公民館にてパネル展示をしました。集めた情報でタイルマップを製作。

ツアー日時／12月8日（土） 午前10時～12時

展示会期／2月17日（日）～3月17日（日）

会場／笠原中央公民館1階ロビー、市内

参加者／小学生6名、大人9名

6. 来館者40万人達成記念ワークショップ「あそぶ+まなぶ 折紙建築」

多治見市モザイクタイルミュージアムの形で、折りたためるペーパークラフト「折紙建築」を制作。



講師／笥清澄、村瀬良太

日時／1月20日（日）

午前10時～12時

小学生10名、大人11名

午後1時30分～4時

小学生2名、大人19名

会場／笠原中央公民館3階

定期開催事業

1. 開館周年記念 タイルプレゼント

モザイクタイルミュージアムの開館記念日である6月4日から、オリジナルで制作した周年記念タイルを、有料入館者に配布しています。

期間／約2週間

配布数／1回につき3,000枚

周年記念タイル（1周年のタイルの例）



同封するカード



2周年のタイルの例

2. 「タイルの日」記念タイルの製作・配布協力

主催／タイルの日実行委員会

大正11年4月12日、平和記念東京博覧会で「タイル」という呼称が統一されたことにちなみ、毎年4月12日に「タイルの日」として記念のタイルを配布しています。



2017年のタイルの例

一般財団法人たじみ・笠原タイル館 タイル産業振興事業

1. タイルなんでも相談会

インテリアデザイナーの協力により、ユーザーがタイルの取り入れ方やデザイン選びについて、直接プロのアドバイスを得て、タイルを注文することもできる無料相談会を実施しています。

講師／亀井寿子、佐藤のりこ、長嶋真澄、
鰐目有香子

場所／モザイクタイルミュージアム2階
会議室

開催日／2017年6月24日から9月までの予定
で、毎週土曜日午後各日限定4人
同年7月29日より毎週土曜日限定3
人（9月から通年企画として継続）

2. タイルパネルプレゼント

2階展示室で展示していた協賛企業各社の製品見本のパネルを、年に1度入れ替えるため、取り外したタイルパネルを希望者に抽選でプレゼントする企画を実施。会場にパネルの写真を入れたファイルを用意し、ホームページ上でも公開して、希望者を募りました。また当選者からは、実際の活用の様子を写真で送付していただくなど、SNSでの情報交流にも活用しました。

①募集期間／2017年7月20日～8月31日
（開館1周年記念事業として）

応募総数／4,874票
プレゼント総数／157点

②募集期間／2018年8月21日～9月21日
応募総数／3,209票
プレゼント総数／208点



3. セミナー

協賛企業や関連業者を対象に、インテリアデザインにおけるタイルの使用方法などをテーマとしたセミナーを開催。

講師／亀井寿子、長嶋真澄、佐藤のりこ、
鰐目有香子
会場／笠原中央公民館3階会議室

①インテリアデザイナーの施工実例とストーリー（スライドレクチャー）

日時／2017年11月27日
午後6時～8時30分

参加者／約50名

②インテリアスタイルから考えるタイルデザイン（スライドレクチャーとグループディスカッション）

日時／2018年11月7日 午後6時～8時
参加者／21名



4. 館外での協力事業（○は展示事業グループ担当）

2016年度

- ・「タイルの祭典」後援
会期／10月24日～10月29日
会場／東京都渋谷区メイセイビル
主催者／タイル人の会（代表／白石普）
- 第41回東海三県博物館協会研究交流会
出席・事例報告
期日／12月2日
会場／四日市市立博物館

- ・建築建材展「セラミックタイル美濃2017」への参加（同じく2018年、2019年）
主催／美濃焼タイル振興協議会
会期／2017年3月7日～10日
会場／東京ビッグサイト
- 「市之倉の文化を受け止め、市之倉小学校を卒業することを心に刻む会」協力
期日／2017年3月15日
会場／多治見市立市之倉小学校

2017年度

- 「藤森照信展 自然を生かした建築と路上観察」タイルカー出品、ワークショップ実施等協力
水戸芸術館 2017年3月11日～5月14日
広島市現代美術館 9月29日～12月3日
- 特別展「生きている大地」原料等出品協力
会期／7月7日～9月3日
会場／岐阜県博物館
- ・商談会及び交流会への参加
主催／一般社団法人 岐阜県観光連盟
会場／大阪（7月12日）、東京（9月7日）、
名古屋（11月9日）

- 岐阜大学 教育学部美術教育講座講師
日時／2018年2月15日（木）
午前10時～12時
演題／モザイクタイルミュージアムからの
試み～タイルを「見る」ということ
場所／岐阜大学教育学部野村研究室
参加者／15名
- ・学生団体岐阜人のイベントへ、タイルワークキット貸出（工業組合より）手配協力
開催日／2018年3月18日
会場／柳ヶ瀬通り柳ヶ瀬あい愛ステーション

2018年度

- 豊橋市子ども未来館ここにこ収蔵品及び産業振興エリアの展示パネルを出品協力
会期／5月8日～22日
会場／豊橋市子ども未来館
- 自治労第91回定期大会（岐阜大会）物販出店への協力
日時／8月23日～24日 午後3時～
場所／岐阜市メモリアルセンター
参加者／笠原陶磁器工業協同組合高木、協同組合ケーエスジー早川、モザイクタイルミュージアム堀江



- 東海テレビ子どもまつり2018withパンマルシェ体験ブース出店への協力
日時／9月8日～9月9日（日）
場所／名古屋市中心企業振興会館
参加者／笠原陶磁器工業協同組合高木、協同組合ケーエスジー早川、県窯業原料協同組合青年部、モザイクタイルミュージアム堀江
- 多治見市北栄小学校図工学習に原料等貸出協力
期間／10月20日～11月10日
- 広域産業観光研究会調査協力（地場産業として発達したやきもの（絵付け加工業）について）
日時／12月26日
調査者／広域産業観光研究会（名古屋学院大学・古池嘉和氏、杉山ひとみ氏）

開館前の収集活動と主な収蔵品

1994年頃から資料収集の開始

笠原町商工会・地場産業振興委員会が、かねてから講師を招いて勉強会を行ってきた中で、低迷する地場産業の再生と地域振興を図るため、タイルの収集活動を進める。東濃三市一町の約100社の協力企業から、アンケート調査に基づき古いタイルや浴槽などの施工品、道具類などを収集。保育園の一室を借りたが、すぐに手狭になり、東濃信用金庫笠原支店の旧店舗に保管、1枚1枚写真を撮り番号を振った。

1995年、笠原町に提言書を提出

タイル産地としての景観づくり、タイルの使用に関する助成制度、タイル博物館の設立を提案。

1999年頃、資料の総数約2,000点。

2001年頃、改めて資料の整理、台帳への登録。資料数約3,500点。

2005年頃、授産所として活用されていた旧笠原児童館（モザイク浪漫館）に資料を移動。



モザイク浪漫館（2014年撮影）



2009年、一般財団法人たじみ・笠原タイル館設立、道の駅構想を廃止し、旧笠原町庁舎跡地を候補に、タイル資料の保管・展示、タイル産業の情報発信を進める方針となる。

2011年より、一般財団法人たじみ・笠原タイル館が、モザイク浪漫館に保管されているタイルの資料整理を多治見市から受託。資料数は約1万点とされる。

2015年、多治見市モザイクタイルミュージアムの4階展示室に施工されることが決まった資料及びモザイクタイルカー（※）を多治見市に移管することを検討。

2016年3月、上記の資料に登録確認の終了したモザイク浪漫館資料を合わせた約6,000点について、多治見市に移管。以後、確認した資料を追加。

★参考資料

- ・『月刊タイル』No.445 株式会社黒潮社、1999年
- ・『(仮)タイル文化センター建設基本構想』報告書、2002年
- ・(仮称)日本タイル館整備推進委員会会議録、2011～2012年

※モザイクタイルカー

2008年度、岐阜県現代陶芸美術館で開催された特別展「タイル きょう・きょう・あした」をきっかけに作られたモザイクタイルカー。車のルーフ部分は、京都のアーティスト、山崎暢子さんによるデザインで、ボディーには、来場者がタイルを貼りつけていった。展覧会終了後、各務典子さんを中心に地元の方々が作業が継続され、全面、笠原のモザイクタイルで埋め尽くされた。

収蔵品の主な内容（2018年12月時点での登録資料）

1. 山内逸三の作品 240件

笠原町におけるモザイクタイル製造の歴史の最初を飾る、施釉磁器モザイクタイルの開発者の作品。



2. 見本台紙 6,444件

営業のために作られた、厚紙にタイルそのものを貼り付けた見本。台紙には、商品名、社名、技術的な説明など、重要な情報が記載されている。



3. タイル単体 1,628件

支持体に貼られたり、何かに固定されていたりしないで、タイルそのものが単独で保管されているもの。



例として、マジョリカタイル、スクラッチタイル、コンテナ入りのモザイクタイルなど。

4. タイル張り製品、作品 155件

洗面台、浴槽などの室内に設置されていた大型製品から、輸出用の灰皿、コースターといった小物まで、タイルを貼って装飾された製品や個人作品の類。



5. 壁面タイル 180件

壁面から剥がされたテラコッタ、スクラッチタイルや、切り取られた銭湯の絵タイルの壁面といったように、建築に付随していた部材として保管された資料。

例として、東京大学旧航空研究所テラコッタ、スクラッチタイル、東京の旧おとめ湯、旧桜湯などの絵タイル、瑞浪の旧常盤湯壁面モザイクタイル画など。



6. 道具類など 871件

モザイクタイルの製造工程にかかわる原料、石こう型、貼り板、荷造り道具から、ハンドプレスなど。

7. 書籍及び企業の商品カタログ

タイルにかかわる専門書、建築関係、陶磁器関係、展覧会図録、雑誌類など 4,155件

開館後の収集活動

資料については、収集品選定委員会を設置し、主に寄贈、寄託の受け入れを行っている。関係書籍は、企画展などに関わるものを中心に継続的に購入している。

資料収集の基本方針

ア) 笠原町が窯業、特にタイル生産の一大集積地であることから、モザイクタイルを中心とした建築用陶材等、地域産業の歴史・文化的要素を発信できる資料を収集すること。

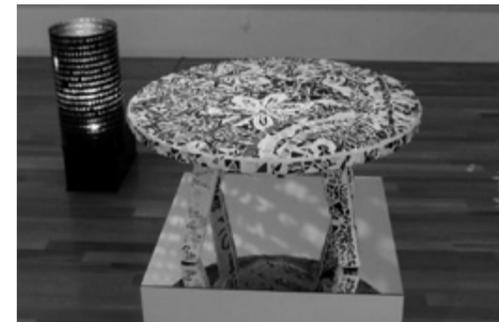
イ) 笠原町をはじめとする国内のタイル・窯業関連資料、またはタイル・窯業にかかわりをもつ人物、事業者等、その功績や実績を象徴するような資料を収集すること。

2016年度

開館記念展 大巻伸嗣〈echoes infinity 永遠なる物語〉より、テーブル（購入）

九州大学箱崎キャンパスよりタイル等8種、ホテルオークラ（東京）旧本館宴会場壁面タイル、泉湯（京都）モザイクタイル画袖壁断片、山茶窯製旧エザキ本社（名古屋）テラコッタ、マジョリカタイルなど

購入1件、寄託1件、寄贈44件



大巻伸嗣〈Echoes Infinity 永遠なる物語〉



エザキ本社テラコッタ

2017年度

加藤家（笠原）より敷瓦約70枚、ロビン理容館（多治見）モザイクタイル床面断片 岩井孝之作絵タイル（額装）など 寄託2件、寄贈16件



敷瓦

2018年度

旧本町ビル（大阪）今井兼次作「糸車の幻想」断片（「織女星」部分）

旧農業新聞本社（東京）陶壁など

寄贈10件



「織女星」部分

収集品選定評価委員会 要綱

第1条 多治見市モザイクタイルミュージアム（以下「ミュージアム」という）における美術品及びタイル関連資料等収集品（以下「収集品」という）の購入、寄贈、寄託の受入れ（以下「収集」という）について、審査及び評価を行い、その適正を期することを目的として、ミュージアム収集品選定評価委員会をおく。

第2条 委員5人以内で組織する。

2 委員は、学識経験を有する者の内から館長が委嘱する。

3 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。委員が欠けた場合においては、補欠委員の任期は前任者の残存期間とする。

第3条 収集品は別に定めるミュージアム美術品等収集方針によるものとする。

第4条 収集品選定評価委員会に委員長をおき、委員の互選によってこれを定める。

第5条 収集品選定評価委員会は、委員長が召集する。

2 収集品選定評価委員会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数の時は委員長の決するところによる。

3 緊急を要する収集品の場合には、書類による審査を実施できるものとする。

収集品選定評価委員会

1期 2016・2017（平成28・29）年度

瀬口哲夫（名古屋市立大学名誉教授）

武藤忠司（瀬戸蔵ミュージアム館長）

酒井一光（大阪歴史博物館学芸員）

2期 2018・2019（平成30・31）年度

瀬口哲夫（名古屋市立大学名誉教授）

武藤忠司（瀬戸蔵ミュージアム館長）

深井明比古（兵庫県立考古博物館学芸員）

施設利用状況

1. 年間来館者数まとめ

年度	開館日数 (日)	有料来館者数 (人)	総来館者数 (人)	1日平均 (人)	左記のうち、 体験工房利用者
2016	256 (6月4日～)	95,292	123,370	約482	26,848
2017	308	140,662	176,493	約573	56,283
2018	308	118,566	150,546	約489	51,930
累計	872	354,520	450,409	約517	135,061

2. 団体及び主な視察

団由来館者数まとめ

2016年度			2017年度			2018年度		
月	来館者数	団体数	月	来館者数	団体数	月	来館者数	団体数
			4月	266	16	4月	920	28
			5月	553	18	5月	1,122	44
6月	267	9	6月	1,121	36	6月	1,457	60
7月	717	22	7月	950	38	7月	956	35
8月	1,126	29	8月	979	39	8月	711	25
9月	765	28	9月	1,137	40	9月	1,273	44
10月	1,603	54	10月	1,879	62	10月	1,861	68
11月	1,975	67	11月	2,372	85	11月	1,798	59
12月	470	17	12月	231	11	12月	388	17
1月	566	16	1月	226	11	1月	138	7
2月	291	14	2月	697	26	2月	393	18
3月	963	31	3月	1,157	35	3月	315	14
合計	8,743	287	合計	11,568	417	合計	11,332	419

主な視察

- 2016年 東濃西部広域行政事務組合、東濃地域建築行政協議会総会・意見交換会事務局、東濃三市建設担当部長会議事務局、多治見市新事業創出基盤施設運営委員、多治見市教育委員会小中学校校長会、岐阜県教育長、岐阜県議会教育警察委員会、岐阜県知事、東濃飛騨市議会議長会、多治見市建設部建築住宅課、多治見市立小中学校教頭会、多治見市役所企画部、輪之内中学校及び輪之内町商工会
- 2017年 秋篠宮真子内親王、中国総領事、トヨタ総務部長、JICA中部国際センター、博物館明治村所長、国際陶磁器フェスティバル審査員等関係者、岐阜県副知事、岐阜県海外戦略推進課、岐阜県庁商工政策課、京都市公共建築整備課、長野県諏訪市議会、古川町商工会青年部、町田市立博物館、名古屋市教育委員会
- 2018年 豊川市教育委員会生涯学習課、静岡県駿東市町長会、関市長、宮城県多賀城市市議会、全国建築審査会長会議、岐阜県海外戦略推進課、中部都市学会、中国欽州市ミュージアム視察団

3. 減免申請

- 2016年度 15件
- 2017年度 27件
- 2018年度 36件

4. その他の利用

- 岐阜県博物館協会第91回研修会（日本展示学会共同開催）事例報告
開催日／2016年10月6日
会場／多治見市モザイクタイルミュージアム
- 愛知県陶磁美術館主催
はじめての陶磁美術館「タイルを楽しむ」（見学、まち歩き）
開催日／2017年3月20日
会場／愛知県陶磁美術館、モザイクタイルミュージアム、笠原町内各所
- 大名古屋ツアーズ「モザイクタイルに恋して。～多治見市モザイクタイルミュージアム見学からタイル工場までじっくり堪能～」
開催日／2017年4月20日
会場／モザイクタイルミュージアム、笠原町内タイルメーカー
- 茅野市美術館友の会スライドレクチャー及び展示解説
開催日／2018年2月3日
演題／モザイクタイルミュージアムのあゆみ～教育普及活動を中心に
会場／笠原中央公民館及びモザイクタイルミュージアム
参加者／35名
- 恵那商工会議所スライドレクチャー及び展示解説
開催日／2018年2月14日
演題／これまでのモザイクタイルミュージアム～活動と来館者の傾向について
会場／笠原中央公民館及びモザイクタイルミュージアム
参加者／9名
- 名古屋市工業科教員研修会スライドレクチャー
開催日／2018年6月22日
演題／モザイクタイルから学ぶ地場産業とものづくり
場所／笠原中央公民館及びモザイクタイルミュージアム
参加者／約20名
- タイルのミュージアム巡りで素敵なプレゼント
期間／2018年12月8日～2019年2月28日
内容／INAXライブミュージアムと共同のスタンプラリー
プレゼント／101名

- 中国旅行サービス教育交流ツアーにより上海市内の小中学生体験
日時／2017年7月14日
会場／モザイクタイルミュージアム



- 職場体験 チラシ発送、清掃、体験工場の作業等の体験を指導。
日時／2017年8月23日（水）、24日（木） 多治見市立陶都中学校 2年生2名
2017年10月4日（水）～6日（金） 岐阜県立土岐紅陵高等学校 1年生1名
2018年8月23日、24日 多治見市立陶都中学校 2年生2名
- 土曜学習
工場見学、モザイクタイルミュージアム見学、貼子体験のワークショップを組み合わせたプログラムとして、2016年より毎年受け入れ。
主催／多治見市教育委員会教育研究所
参加者／小学生等毎回約80名

施設関係印刷物



開館前PRリーフレット



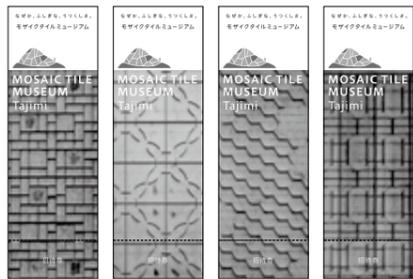
開館記念式典招待状



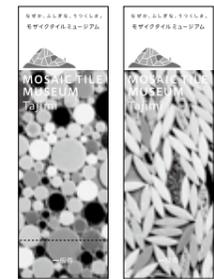
ポスターA3



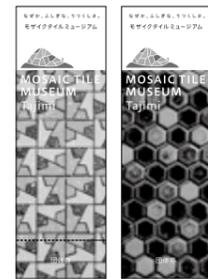
施設案内リーフレット



招待券



一般観覧券



団体観覧券



各企画展小冊子



封筒



切手テンプレート
記念切手を地域限定販売
(郵便局)

広報記録

・開館前～2016(平成28)年度

媒体	web	新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	その他	合計
件数	18	125	100	15	8	19	285

主な掲載物

2014年

- 5月28日 中日新聞岐阜版 16年6月開業目指す
- 5月28日 岐阜新聞東濃版 「タイルのまち」象徴
- 5月28日 朝日新聞岐阜版 多治見・笠原にミュージアム
- 5月28日 読売新聞岐阜版 「本物未施設に」
- 5月28日 毎日新聞 モザイクタイル博物館 多治見市に16年開館
- 5月28日 中部経済新聞 外観は「採土場の風景」
- 5月29日 建設通信新聞中部版 16年度開館目指す
- 6月5日 陶業時報 モザイクタイル博物館を建設
- 6月6日 東濃新報 タイルの殿堂いよいよ
- 11月1日 GA Japan131号 藤森照信「多治見市モザイクタイルミュージアム」編

2016年

- 4月9日 やくならマグカップも Vol.16 多治見市モザイクタイルミュージアム2016/6 OPEN
- 5月20日 東海ウォーカー 6月号 多治見に不思議な形の建造物現る!? モザイクタイルミュージアムが誕生
- 5月25日 おりべくらぶ 多治見市モザイクタイルミュージアム
- 5月26日 東京新聞夕刊 耳寄り:モザイクタイルミュージアム
- 5月27日 東濃新報 多治見市モザイクタイルミュージアム完成
- 6月1日 広報たじみ No.2281 陶業地ならではの光景「土取り場」をイメージ モザイクタイルミュージアム
- 6月3日 webるるぶ.com るるぶNEWS編集部レポート 岐阜県・多治見市「モザイクタイルミュージアム」が開館!
- 6月3日 日本経済新聞 窓

- 6月4日 朝日新聞 モザイクタイル 美しくて丈夫 きょう開館
- 6月5日 中日新聞 モザイクタイルミュージアム開館
- 6月7日 朝日新聞 笠原の歴史と思い込めて多治見・モザイクタイルミュージアム
- 6月18日 テレビ・CBC 花咲かタイムズ
- 6月18日 テレビ・メーテレ デルサタ
- 6月20日 天然生活 New open 岐阜・多治見市にモザイクタイルミュージアムが開館
- 6月21日 住む Architecture 国内シェア80%を誇ったモザイクタイルの里・笠原町に開館
- 6月24日 web Fashion Headline Design 日本一のタイルの町、岐阜県多治見市に「モザイクタイルミュージアム」がオープン! 第1回目の企画展は大巻伸嗣
- 6月24日 東海ファミリーウォーカー2016 「NEWS WALKER」 不思議な形の外観がインパクト大の新施設!
- 6月27日 子ども夢ネット Vol. 54表紙 かさはらに新しくオープンしたモザイクタイルミュージアム!
- 6月28日 東海テレビ スイッチ!
- 6月29日 Casa BRUTUS.com Architecture 藤森照信が設計・監修したモザイクタイルの博物館、オープンです!
- 7月1日 テレビ・メーテレ ドデスカ!
- 7月1日 テレビ・CBC イッポウ
- 7月1日 AXIS Vol.182 inspiration(建築) タイルに興味がない? 藤森照信による、タイルのミュージアム。
- 7月5日 webみのEDO 特集 町とともに生きるタイルの館 多治見市モザイクタイルミュージアム開館!
- 7月9日 Casa BRUTUS No.197 August 2016 (「見逃せないアート100」より) 057
- 7月10日 旅の手帖 8月号 西日本発 news&topics モザイクタイルミュージアム誕生
- 7月15日 LiVES Vol.88 (住宅&インテリアの最新情報より) 多治見にモザイクタイルのミュージアムがオープン
- 7月15日 関西の私鉄・JRで行く お得きっぷの旅 モザイクタイル専門の新ミュージアムへ!

- 7月22日 流行発信MOOK おでかけ大人旅 東海版 Vol. 2 ニッポンのまんなか美濃の東 岐阜県東濃の旅、建築物の絶景
- 7月25日 ジパング倶楽部 ジパングNEWS 産業の歴史とデザインをめぐる 多治見市モザイクタイルミュージアム
- 8月1日 まっふるマガジン まっふる岐阜 飛騨高山・白川郷 多治見に誕生 モザイクタイルミュージアム
- 8月1日 陶説 8月号 通巻第761号 多治見市モザイクタイルミュージアム開館
- 8月21日 中京テレビ 前略、大徳さん
- 7月29日 チルチンぴと 別冊49 9月号別冊 土のまち・多治見市笠原町からタイルを発信する 多治見市モザイクタイルミュージアム
- 9月12日 オズマガジン 10月号 No.534 思わずうなる!? 美景 & 不思議景ミュージアム
- 9月15日 Pen 10月1日号 No.414 いま行くべき美の殿堂 ミュージアム最新案内

2017(平成29)年度

媒体	Web	新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	その他	合計
件数	51	48	94	22	8	45	268

主な掲載物

- 4月1日 愛知トヨタ「FUN」Vol.54 モノづくりスポット多治見で見て、つくって芸術ゴコロを育もう!
- 4月15日 「Casa BRUTUS」世界のベストミュージアム
- 4月25日 中京テレビ「キャッチ!」思わず写真を撮りたくなるお店
- 5月11日 ウェブ「HANJOHANJO」斜陽産業に光! 多治見タイルのコト戦略

2018(平成30)年度

媒体	Web	新聞	雑誌	テレビ	ラジオ	その他	合計
件数	51	56	103	19	9	44	282

主な掲載物

- 4月1日 書籍『藤森照信の建築探偵放浪記～風の向くまま気のむくまま～』タイル愛に満ちた博物館
- 4月1日 中日新聞東濃版「来場者30万人で記念品 多治見のタイルミュージアム」
- 4月1日～連載 広報たじみ「たじみすと」モザイクタイルの散歩道 Vol.1～12
- 4月18日 NHK名古屋「さらさらサラダ」
- 4月30日 名古屋テレビ「UP!」中部ブロック「春のインスタ映え」

- 9月15日 菊池亜希子ムック マッシュvol.10 岐阜のみちくさ、いつもの景色と知らなかった景色
- 10月1日 家庭画報 11月号 芸術に触れる旅、秋の「美術館」を愉しむ
- 11月1日 GA Japan 143号 INSIDE VIEW 藤森照信
- 11月10日 週刊新潮 第61巻43号(通巻3062号) タイルの町に出現した異形の美術館
- 11月14日 web地球の歩き方「日本の歩き方」 「多治見市モザイクタイルミュージアム」
- 11月25日 芸術新潮 12月号 伊藤まさこの小さい美術館めぐり 時々おやつ No.18
- 11月. ヴィヴィ68号 特集 岐阜のちから 多治見市モザイクタイルミュージアム各務寛治さん

2017年

- 1月1日 テレビ・NHK Eテレ 日曜美術館40周年特集「ゆく美、くる美」
- 1月1日 新建築 第92巻1号 多治見市モザイクタイルミュージアム

- 5月13日 ZIP FM(ラジオ)「LOVELY」JR東海 FUN DAY TRIP
- 5月21日 中京テレビ「遠くへ行きたい」岐阜編(出演:竹下景子)
- 6月 「my HOME」(台湾)創意建築地景 日本多治見市馬賽克磁磚博物館
- 6月17日 東海テレビ「ぐっさん家」今の時期だからこそ行きたい!多治見旅
- 7月4日 CBCテレビ「#やすだの歩き方」
- 8月24日 「日経アーキテクチュア」No.1102 藤森照信 異端からの逆転
- 10月27日 中京テレビ「PS純金ゴールド」

- 5月12日 名古屋テレビ「ウドちゃんの旅してゴメン」岐阜・多治見編
- 7月13日 NHK BSプレミアム「美の壺」百花繚乱 タイル
- 9月1日 テレビ東京「出川哲朗の充電させてもらえませんか?」
- 10月7日 「Discover JAPAN」11月号 見ておきたい、ニッポンのミュージアム建築
- 10月15日 「香港Walker」10月15日号 レンタカーで行く岐阜特集
- 10月30日 金剛株式会社「PASSION」VOL.40 地場産業の再評価で高まる まちへの誇り
- 2019年2月28日他 中京テレビ「まんなかチュウキョ～」

組織

多治見市役所 モザイクタイルミュージアム設立関係者 [2014(平成26)年4月から2016年3月]

建設部五大プロジェクト建設事務局

経済部産業観光課担当職員 2名

経済部産業観光課 タイル館担当嘱託職員 2名

企画展示専門員 1名 (2016年3月まで)

一般財団法人たじみ・笠原タイル館組織構成 [2014(平成26)年4月から2016年3月]

代表理事 各務寛治

理事 5名

監事 1名

評議員 4名

顧問 1名

事務局 3名

企画運営委員 17名

企画運営委員会アドバイザー 7名

モザイク浪漫館資料整理員 2名

多治見市モザイクタイルミュージアム組織構成 [2016(平成28)年4月から2018年3月]

一般財団法人たじみ・笠原タイル館

代表理事 各務寛治

理事 8名

監事 2名

評議員 4名

顧問 1名

アドバイザー 3名

事務局 3名

プロジェクト会議 8名

コンシェルジュスタッフ 1名

モザイクタイルミュージアム資料整理員 3名

多治見市モザイクタイルミュージアム指定管理者

館長 各務寛治

事務局長 1名

総務管理グループ 嘱託職員 1名

展示事業グループ 職員(学芸員) 1名

嘱託職員 1名

サービス交流グループ 嘱託職員 2名

臨時職員(アルバイト)

条例

多治見市モザイクタイルミュージアムの設置及び管理に関する条例

平成26年9月29日条例第27号
改正 令和元年6月28日条例第12号

(設置)

第1条 タイルの歴史及び文化に関する資料を収集し、保存するとともに、これを広く一般に公開し、タイルの魅力を周知することにより、市民文化の向上及び産業振興に資するため、多治見市モザイクタイルミュージアム（以下「ミュージアム」という。）を設置する。

(名称及び位置)

第2条 ミュージアムの名称及び位置は、次のとおりとする。

- 名称 多治見市モザイクタイルミュージアム
- 位置 多治見市笠原町字古御所2082番地の5

(事業)

第3条 ミュージアムは、次に掲げる事業を行う。

- タイルの歴史及び文化に関する資料の収集及び保存並びに展示
- タイルの歴史及び文化に関する調査研究及び普及啓発
- タイル産業の振興に資する情報収集及び情報発信
- その他第1条に規定する設置目的の達成に必要な事業

(指定管理者による管理)

第4条 ミュージアムの管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて市長が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

(指定管理者が行う業務)

第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- 第3条各号に掲げる事業の実施に関すること。
- ミュージアムの観覧及び利用の許可に関すること。
- ミュージアムの管理に関すること。
- 観覧料（第7条第1項に定める観覧料をいう。）及び利用料金の収受に関すること。
- 前各号に掲げるもののほか、市長が必要と認めること。

(開館時間等)

第6条 ミュージアムの開館時間及び休館日は、規則で定める。

(観覧料)

第7条 ミュージアムの展示を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の範囲内において指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める額（以下「観覧料」という。）を納入しなければならない。

- 観覧料は、その都度納入しなければならない。ただし、指定管理者が特に必要と認めたときは、この限りではない。

(観覧料の収入)

第8条 地方自治法第244条の2第8項の規定により、市長は、観覧料を指定管理者の収入として収受させるものとする。

(資料の貸出し)

第9条 指定管理者は、別に市長の定めるところにより資料の貸出しを許可することができる。

- 前項の規定により貸出しの許可を受けた者は、許可を受けた目的以外に資料を使用し、又はその使用の権利を他人に譲渡し、若しくは転貸してはならない。

(撮影等の許可)

第10条 指定管理者は、別に市長の定めるところにより、資料の撮影、模写、模造、図書（ホームページ、配布目的のための光ディスクその他の電子媒体等を含む。）への掲載及び閲覧（以下「資料の撮影等」という。）を許可することができる。

- 前条第2項の規定は、前項の規定による資料の撮影等の許可を受けた者について準用する。

(研修工作室及びギャラリースペースの利用申請及び許可)

第11条 ミュージアムの研修工作室及びギャラリースペース（以下「研修工作室等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者に申請し、その許可を受けなければならない。

- 指定管理者は、前項の許可に、研修工作室等の管理上必要な条件を付すことができる。
- 第1項の許可を受けた者（以下「利用者」という。）がその許可に係る事項を変更しようとするときも、前2項と同様とする。

(目的外使用)

第12条 市長は、研修工作室等をその目的又は用途を妨げない限度において、目的外に使用させることができる。

- 前条から第21条まで（この条、第14条後段及び第17条を除く。）の規定及び別表第2の規定は、前項の規定により研修工作室等を目的外に使用させる場合について準用する。この場合において、前条第1項中「利用」とあるのは「使用」と、「指定管理者」とあるのは「市長」と、同条第2項中「指定管理者」とあるのは「市長」と、同条第3項中「利用者」とあるのは「使用者」と、次条中「指定管理者」とあるのは「市長」と、「利用」とあるの

は「使用」と、第14条中「利用者」とあるのは「使用者」と、第15条第1項中「指定管理者」とあるのは「市長」と、「利用者」とあるのは「使用者」と、「利用の」とあるのは「使用の」と、同条第2項中「利用者」とあるのは「使用者」と、「市及び指定管理者」とあるのは「市」と、第16条第1項中「利用者」とあるのは「使用者」と、「額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める利用料金」とあるのは「使用料」と、同条第2項中「利用者」とあるのは「使用者」と、「利用の」とあるのは「使用の」と、「利用料金」とあるのは「使用料」と、「指定管理者」とあるのは「市長」と、第18条中「観覧料及び利用料金」とあるのは「使用料」と、「あらかじめ市長と協議の上、指定管理者」とあるのは「市長」と、第19条中「指定管理者は、市長が別に定めるところにより」とあるのは「市長は、公益上その他特別の事由があると認めるときは」と、「観覧料及び利用料金」とあるのは「使用料」と、第20条中「利用者」とあるのは「使用者」と、「利用を」とあるのは「使用を」と、「利用の」とあるのは「使用の」と、第21条中「利用者」とあるのは「使用者」と、別表第2中「利用料金」とあるのは「使用料」と、「利用時間」とあるのは「使用時間」と読み替えるものとする。

(利用の制限)

第13条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、資料の貸出し、資料の撮影等及び研修工作室等の利用を許可しない。

- 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあるとき。
- 施設、器具等又は資料を毀損又は滅失するおそれがあるとき。
- その他ミュージアムの管理上支障があると認められるとき。

(権利譲渡等の禁止)

第14条 第9条第2項の規定は、利用者について準用する。この場合において、同項中「使用」とあるのは、「利用」と読み替えるものとする。

(利用の許可の取消し等)

第15条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当する場合は、その利用の許可を取り消し、又は利用の停止を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
- (2) この条例に基づく許可の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正な行為により利用の許可を受けたことが明らかになったとき。
 - 2 前項の規定の適用によって利用者が受けた損害については、市及び指定管理者は、その責めを負わないものとする。

(研修工作室等の利用料金)

第16条 利用者は、別表第2に定める額の範囲内において、指定管理者があらかじめ市長の承認を得て定める利用料金を納入しなければならない。

- 2 利用者は、利用の許可を受けたときに利用料金を納入しなければならない。ただし、指定管理者がやむを得ない事由があると認めるときは、この限りではない。

(利用料金の収入)

第17条 第8条の規定は、前条第1項の利用料金について準用する。

(観覧料等の還付)

第18条 既納の観覧料及び利用料金は還付しない。ただし、あらかじめ市長と協議の上、指定管理者が特に必要と認めるときは、その全部又は一部を還付することができる。

(観覧料等の減免)

第19条 指定管理者は、市長が別に定めるところにより、観覧料及び利用料金を減免することができる。

(原状回復の義務)

第20条 利用者は、研修工作室等の利用を終えたときは、直ちに原状に回復しなければならない。第15条第1項の規定により許可を取り消され、又は利用の停止を命ぜられたときも同様とする。

(遵守義務)

第21条 ミュージアムに入館する者及び利用者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- (1) 施設、器具等又は資料を毀損しないこと。
- (2) 他人に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- (3) 許可無く写真撮影等をしないこと。
- (4) 前3号に掲げるもののほか、市長及び指定管理者が指示する事項

(損害賠償の義務)

第22条 施設、器具等を毀損し、又は滅失したときは、損害を賠償しなければならない。ただし、市長がやむを得ない理由があると認めるときは、この限りではない。

(入館の制限)

第23条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、ミュージアムへの入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 他人に危害を及ぼし、又は他人に迷惑になる物品若しくは動物の類を携帯する者
- (2) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認められる者
- (3) その他ミュージアムの管理上支障があると認められる者

(委任)

第24条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

多治見市モザイクタイルミュージアム ロゴマークについて

マークのシルエットは、当館の設計を担当した、建築家・藤森照信氏のスケッチ、すなわち、当館の建築のモデルとなった採土場の風景を表現したものです。藤森建築の思想に加え、古くから土と深くかかわる地域のタイル業界関係者と行政の産業観光の思いを、そのままマークに生かしています。5つの色は、歴史文化・空と美しさ・人とつながり・山と豊かさ・多治見市の魅力、の意味を持たせています。モザイクを表すピースの組み合わせは、目地によって「MOSAIC TILE」と文字がなぞれるように組み込みました。

ロゴマークデザイン／(株)クーグート



**MOSAIC
TILE
MUSEUM
Tajimi**

利用案内／アクセス

開館時間／午前9時～午後5時（ご入館は閉館の30分前まで）

休館日／月曜日（休日の場合は翌平日） 年末年始（12月29日～1月3日）

観覧料

※3、4階展示室入場には下記観覧料が必要です。

※2階のみご利用の場合はお申し込みが必要です。

※1階、2階をご利用の方も必ず受付にお申し出ください。

※金額は2019年10月からの新料金で表示しています。

■個人 310円

■団体（20名以上） 250円

- ・高校生以下は無料（学生証のご提示で無料になります）
- ・療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者手帳をお持ちの方、及び、その付き添いの方1名は無料。
- ・企画展は別に定めることがあります。

■年間パスポート 1,020円

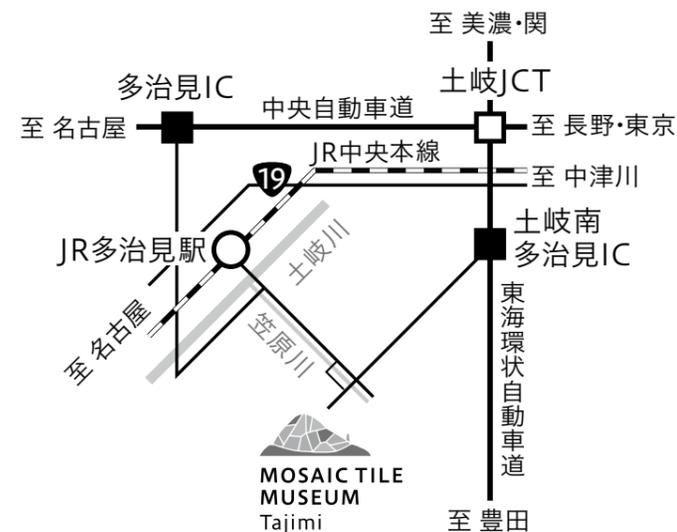
アクセス

■公共交通機関

多治見駅南口を出て、「多治見駅前」2番バスのりばから東鉄バス笠原線『東草口行き』または『羽根行き』に乗車、「モザイクタイルミュージアム」下車。（駅からの所要時間／約17分）

■自動車

多治見ICから約25分。土岐南多治見ICから約15分



掲載写真

小寺克彦 …… P 2、P 4、P 21、P 23、P 25、P 35、P 36左上、P 37左下

児島章次 …… P 3 上、P 9、P 18～19

林政司 …… P 3 下

多治見市モザイクタイルミュージアム 年報 第1号

編集・発行 一般財団法人たじみ・笠原タイル館

2020（令和2）年3月31日

〒507-0901 岐阜県多治見市笠原町2082-5

多治見市モザイクタイルミュージアム内

電話 0572-43-5101

FAX 0572-43-5114

URL <http://mosaictile-museum.jp>

印刷 株式会社山田写真製版所

